

なら

植防ニュース

農薬安全使用研修会の開催

2021 年 8 月 6 日に奈良県農業研究開発センター交流・サロン棟にて農薬安全使用研修会が開催された。昨年と同じく、コロナウイルス感染拡大の影響により、参加人数を制限し、2 部制で行った。

「農薬は周りに配慮し正しく使用」というテーマで、(公社)緑の安全推進協会の乾公正氏が講演された。

農薬には農作物・使用者・消費者・周辺住民や環境に対する安全性が求められている。そこで、法令等取り扱い上の規則をつくり、登録制度を設けて、規則を遵守することで、農薬の安全性を確保している。

農薬の適正使用は安全性を確保する上で重要である。農薬散布時に生じる問題の一つに周辺への飛散(ドリフト)がある。ドリフトは、公共用水域への農薬混入による環境への影響や近隣農作物への影響、近隣住民とのトラブルなど、様々な問題を引き起こす。顔に風を感じる程度の風速であっても、約 3m 風下まで飛散することが確認されている。ドリフト防止には散布時の風速や方向、位置に注意し、ドリフト低減ノズルを使用するなど、適切なノズルと圧力で適正量散布することが効果的である。

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1
奈良県農業研究開発センター内

TEL:0744(47)4861

FAX:0744(47)4862(専用)

HP: <http://www.narasyokubo29.sakura.ne.jp/>

目 次

◎農薬安全使用研修会の開催	1
◎日本植物防疫協会シンポジウム	2
◎第16回EBCワークショップ	3
◎登録失効になった農薬	4
◎農薬の使用制限にかかる登録変更	4
(FAMICの失効農薬情報より)	

不適切な使用による人への農薬事故は、近年も起きており、散布時の保護具の着用や農薬の保管管理など、徹底しなければならない。

住宅地等における農薬散布については法令で規定されており、使用者は住宅地や近接する土地で使用する際、農薬の飛散防止措置を講じるよう努めなければならない。周辺住民へは事前に使用目的や散布日時、農薬の種類、連絡先などを周知し、看板の表示や立入制限範囲を設定して散布時や直後に他者が立ち入らないようにする。また、定期的な散布は避け、できるだけ農薬散布せずに済むよう、病害虫の発生しにくい作物の選定や環境整備を行なうこと、病害虫の発生に応じ適切に防除することが重要である。

日本植物防疫協会主催シンポジウム「新しい時代に向けた病虫害の診断と発生予察を考える」

9月17日に日本植物防疫協会主催のシンポジウムがオンラインにて開催された。

本年は5、6月に「みどりの食料システム戦略」、「植物防疫の在り方について(中間論点整理)」が公表され、植物防疫を巡る大きな動きがあった。これらの中で課題とされた発生予察の高度化に関する先端技術とその使用者との新たな関係が主題となった。

農林水産省植物防疫課の羽石氏より、発生予察の高度化を踏まえた今後の発生予察事業について講演があった。病虫害防除指導の中核を担う病虫害防除所職員や普及指導員の数が減少し、経験の少ない職員が増加している。都道府県向けのアンケートでは、農業者に防除に関する情報を的確に伝えることができないことなどが課題としてあげられた。このことから、ドローンやAIを活用して省力的な発生予察手法を開発し、さらに、民間企業と連携して、農家向けのアプリを開発し、情報を迅速に伝達するという方向性を示した。農研機構農業環境研究部門の岩崎氏より深層学習による病虫害識別技術の開発と将来展望について講演があった。深層学習による病虫害識別では背景や撮影条件等の影響を受けやすい。また、深層学習には大量の写真データが必要であるため、新規害虫への迅速な対応は困難であるとされた。

日本農薬株式会社の谷口氏よりスマートフォンアプリ「レイミーのAI病虫害雑草診断」の活用と将来の展望について講演があった。2020年4月のアプリ配信時は水稻だけであったが、現在ではキャベツ、

奈良県病虫害防除所 勝真 雅大

ハクサイ、ブロッコリー、レタス、ネギの病虫害の診断も可能となっている。また、AIが間違った診断をする場合があるので、アプリに保存されている病虫害の画像と実際の病虫害を比較できるカルテ式診断の機能がある。将来の展望として、使用者に病虫害の発生情報を返すフィードバックシステムの開発や、予察システムの開発があげられた。予察システムは農薬メーカーだけでの運用が難しいことから、官民含めた多くの関係機関の連携の必要性を述べられた。

奈良県農業研究開発センターの國本氏より奈良県における発生予察・診断・指導の現状と将来について講演があった。AIを過信せず、AIが診断・防除指導・発生予察において何ができて、何が苦手なのかを理解することが大切である。また、普及指導員の年齢構成がベテランの50代と若手の20代に二極化しており、ベテランが現役の内に技術を継承することと研修の強化が求められる。また、病虫害防除所職員にも普及指導員が受講しているような研修プログラムが必要との認識を示した。

岩手県農業研究センターの岩館氏より岩手県における発生予察・診断・指導の現状と将来について講演された。岩手県は北海道に次ぐ面積で、県内をくまなく調査することが困難である。過去の巡回調査データを解析し、発生の変移が同一の地域を特定した。このことを活用し、調査地点を減らした上で現状の精度を保つ調査手法を検討しているとのことであった。

第16回EBC (Evidence-based Control エビデンスに基づいた病害防除)ワークショップ
(オンライン2021.9.15開催)

①佐賀県農研センターの井手洋氏は、大発生したタマネギべと病防除の共同研究について報告した。第1次感染は、苗床～定植後に起こり、平均気温が6℃以上になると発生が多くなる。苗床の防除にはバスマイド微粒剤のは種前処理、CAA系薬剤のジャストフィットフロアブルなどの散布、二次感染防止にはジマンダイセン水和剤の予防散布、機能性展着剤の加用、夏期の湛水による菌密度低減効果などが示され、感染予測モデルや防除体系が提案された。成果マニュアルは<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00370267/index.html>で公開中。

②(株)住友化学の倉橋真氏は新規殺菌剤インピルフルキサムの特長について報告した。本剤は、コハク酸脱水素酵素阻害剤(SDHI)で、カナメフロアブルなどが登録されている。リンゴ黒星病菌やリゾクトニア属菌に対し、高い抗菌活性を示す。放射性同位元素の動態観察により、葉基部から葉先への移行が確認された。リンゴ黒星病、ナシ黒星病や赤星病に高い効果を示す。担子菌病害に効果が高く、ネギさび病や白絹病、キク白さび病に優れた防除効果がある。今後多くの作物に登録拡大される見込みである。ただし、SDHI剤は、耐性菌リスクが中～高に分類され、予防散布やローテーション散布など他の作用点を有す

る殺菌剤との併用を推奨している。

③(株)日本農薬の長谷部元宏氏は、パレード20フロアブルのセルトレイ灌注処理について報告した。キャベツ苗に100倍希釈液を500ml灌注処理し、移行を調べた結果、処理3～7日後には下位葉に分布した。圃場試験ではレタス菌核病に対し、慣行の地上部散布体系と同等以上の効果を示し、ネギ黒腐菌核病に対して慣行散布と同等以上の効果が確認された。当協会の試験でもハクサイ苗立枯病に卓効を示した。本技術により労働作業の軽減、地上部散布の回数削減が期待される。

④(株)バイエルクロップサイエンスの内田聡氏は、水稻種子処理剤による病害虫防除技術について報告した。種もみに薬剤を直接処理して箱処理剤と同等の効果を発揮し、本田で発生する病害虫を防除することができる。ルーチンシードFSは、6～12ml/種もみ1kg処理でいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病に有効であり、処理種子は9ヶ月の保存が可能。

このほか第1部では西日本農研センターの川口章氏が病害防除における圃場試験・データ解析・論文執筆について、プラントヘルスケア研の田代暢哉氏がエビデンスに役立つ頻度データの統計解析について講演があった。

＜お知らせ＞

2021年8月19日に開催された臨時総会にて、本協会役員の一部改選があり、新代表理事会長に三浦満彦（奈良県農業協同組合中央会 専務理事）が就任しました。

登録農薬失効情報（2021.6.1～2021.9.30）農林水産消費安全技術センター（FAMIC）の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
殺虫剤				
18689	テブフェノジド粉剤	日農ロムダン粉剤DL	日本農薬	6/22/21
20748	クロルピクリン・D-Dくん蒸剤	ダブルストッパー	グウミカ	6/7/21
20799	クロチアニジン粒剤	ダントツ1キ口粒剤	住友化学	6/16/21
20802	カルタップ・クロチアニジン粒剤	ダントツバダン1キ口粒剤	住友化学	6/16/21
22405	ジノテフラン水溶剤	アントム顆粒水溶剤	三井化学アグロ	9/8/21
22410	クロマフェノジド水和剤	MICマトリックフロアブル	三井化学アグロ	9/7/21
24179	クロチアニジン・フルエンズルホン粒剤	ダントツネマドン粒剤	住友化学	6/16/21
殺虫殺菌剤				
19243	エトフェンブロックス・フサライド・フルトラニル粉剤	モンラブレボンF粉剤DL	日本農薬	6/22/21
20803	カルタップ・クロチアニジン・バリダマイシン粉剤	ダントツバダンバリダ粉剤DL	住友化学	6/16/21
21219	クロチアニジン・バリダマイシン・フェリムゾン・フサライド粉剤	ブラシンバリダダントツH粉剤DL	住友化学	6/16/21
22027	イミダクロプリド・フィブロンル・チアジニル粒剤	ブイゲットプリンスアドマイヤー粒剤	日本農薬	6/22/21
22173	クロチアニジン・フラメトビル粒剤	ダントツリンバー粒剤	住友化学	6/16/21
22625	クロチアニジン・バリダマイシン・フェリムゾン・フサライド水和剤	ブラシンバリダダントツフロアブル	住友化学	6/16/21
22638	カルタップ・クロチアニジン・バリダマイシン・フェリムゾン・フサライド粉剤	ハスラーH粉剤DL	住友化学	6/16/21
22912	クロチアニジン・スピネトラム・イソチアニル粒剤	スタウトダントツディアナ箱粒剤	住友化学	9/15/21
23580	イミダクロプリド・スピノサド・チアジニル粒剤	ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤	日本農薬	6/22/21
23604	クロチアニジン・フサライド粉剤	ラプサイドダントツH粉剤DL	住友化学	6/16/21
23893	カルタップ・イソチアニル粒剤	スタウトバダン箱粒剤	住友化学	6/16/21
殺菌剤				
17474	アグロバクテリウム ラジオバクター剤	バクテローズ	日本農薬	6/22/21
23369	ピリオフェノン水和剤	プロパティSC	石原ハイテ	6/15/21
除草剤				
20719	インダノファン・ピラゾスルフロエチル・プロモブチド粒剤	三菱キリフダエースジャンボ	日本農薬	7/19/21
21523	ピラゾスルフロエチル・メフェナセット粒剤	協友アクト粒剤	協友アグリ	7/20/21
21524	ピラゾスルフロエチル・メフェナセット粒剤	協友アクト1キ口粒剤	協友アグリ	7/20/21
21212	インダノファン・ピラゾスルフロエチル・ベンゾピシクロン粒剤	日農ボス1キ口粒剤	日本農薬	6/22/21
23549	フェノキサスルホン・ベンスルフロメチル・ベンゾピシクロン粒剤	オオワザ1キ口粒剤75	日本農薬	6/22/21
23550	フェノキサスルホン・ベンスルフロメチル・ベンゾピシクロン水和剤	オオワザフロアブル	日本農薬	6/22/21

令和3年9月29日付で下記の農薬に使用制限に係る大幅な登録変更がありました。

詳細は、各申請農薬メーカーのホームページをご覧ください。

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者の名称
18211	イミダクロプリド水和剤	アドマイヤー水和剤	バイエルクロップサイエンス株式会社
18212	イミダクロプリド水和剤	クミアイアドマイヤー水和剤	クミアイ化学工業株式会社
18218	イミダクロプリド粒剤	アドマイヤー1粒剤	バイエルクロップサイエンス株式会社
18220	イミダクロプリド粒剤	クミアイアドマイヤー1粒剤	クミアイ化学工業株式会社
18562	イミダクロプリド水和剤	アドマイヤーフロアブル	バイエルクロップサイエンス株式会社
18563	イミダクロプリド水和剤	クミアイアドマイヤーフロアブル	クミアイ化学工業株式会社
20342	イミダクロプリド水和剤	アドマイヤー顆粒水和剤	バイエルクロップサイエンス株式会社
20343	イミダクロプリド水和剤	クミアイアドマイヤー顆粒水和剤	クミアイ化学工業株式会社
24102	イミダクロプリド・エチプロール水和剤	アドマイヤープラスフロアブル	バイエルクロップサイエンス株式会社